

やまのいも に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年10月2日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害							希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	葉 洪水 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	青 か び 病	褐 色 腐 敗 病	根 腐 病	う ど ん こ 病							
ベンレートT水和剤20				●	●			100~200倍 (-)	植付前	1回	10分間種いも浸漬	チウラム	1回	M03
						●		20倍 (-)	植付前	1回	約2秒間種いも浸漬	チウラム	4回以内(但し、植付前までの処理は1回以内、植付後は3回以内)	
				●				種いも重量の0.3~0.5% (-)	植付前	1回	種いも粉衣			
ティービック水和剤						●		50倍	植付前	1回	約2秒間種いも浸漬	チウラム	1回	M03
												ペンシクロン	1回	
ダコニール1000	●	●	●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫30日前まで	6回 以内	散布	T P N	6回以内	M05
ジマンダイセン水和剤	●	●						400~600倍 (100~300L/10a)	収穫21日前まで	4回 以内	散布	マンゼブ	4回以内	(殺虫殺菌剤) F:M03 I:UN
キノンドー水和剤40	●							600倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	5回 以内	散布	有機銅	5回以内	M01
ラビライト水和剤	●	●						400倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	4回 以内	散布	チオファネートメチル	5回以内	1
												マンネブ	4回以内	
トップジンM水和剤	●	●						800倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	チオファネートメチル	5回以内	1
ストロビーフロアブル	●							2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	クレソキシムメチル	3回以内	11
								24倍 (3L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	無人航空機による散布			
フロンサイド水和剤	●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	4回 以内	散布	フルアジナム	5回以内(但し、植付前の土壌混和は1回以内、植付後の散布は4回以内)	29

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> やまのいも

【令和6年10月2日現在】

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	葉 渋 病	炭 疽 病	つ る 枯 病	青 か び 病	褐 色 腐 敗 病	根 腐 病	う ど ん こ 病	その他 病害虫							
ベルコート水和剤	●								1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	イミノクタジナルベ シル酸塩	5回以内(但し、種いもへの処理は1回以 内、無人航空機散布は3回以内)	M07
				●					- (種いも重量の1%)	植付前	1回	種いも粉衣			
ベルコートフロアブル	●	●							1000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	イミノクタジナルベ シル酸塩	5回以内(但し、種いもへの処理は1回以 内、無人航空機散布は3回以内)	M07
	●								12倍 (3L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	無人航空機による散布			
				●					200倍 (-)	植付前	1回	1~10分間種いも浸漬			
Zボルドー	●	●							500倍 (100~300L/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01
									16倍 (3.2L/10a)	-	-	無人航空機による散布			
硫黄粉剤50						●	ハダニ類	3kg/10a	-	-	-	散布	硫黄	- (殺虫殺菌剤)	F:M02 I:UN

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

やまのいも 使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年10月2日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	コガネムシ類 幼虫	アブラムシ類	アザミウマ類	ハダニ類	ヤマノイモコガ	ナガイモコガ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ							
クロールピクリン								(その他病虫害) 褐色腐敗病、根腐病、ケラ、センチュウ類、 ネキリムシ類、ハリガネムシ類、一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り3~5ml <圃場> 1穴当り2~3ml	-	1回	土壌くん蒸	クロールピクリン	1回	8B
ダイアジノンSLゾル	●								25倍 (100L/10a)	植付前	1回	全面土壌混和	ダイアジノン	1回	1B
アドマイヤー1粒剤	● #	●							4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	イミダクロプリド	3回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後の処理は2回以内)	4A
フォース粒剤								タネバエ	4kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	テフルトリン	1回	3A
								ネキリムシ類	6kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和			
オルトラン水和剤		●			●				1000倍 (100~300L/10a)	収穫45日前まで	1回	散布	アセフェート	1回	1B
アドマイヤー顆粒水和剤		●							10000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後の処理は2回以内)	4A
								160倍 (3.2~4L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	無人航空機による散布				
								400倍 (4~12L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	無人航空機による散布				
トレボン乳剤		●			●		●		1000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	エトフェンプロックス	3回以内	3A
トレボン粉剤DL							●		4kg/10a	収穫14日前まで	3回 以内	散布	エトフェンプロックス	3回以内	3A

: 「コガネムシ類」で登録

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> やまのいも

【令和6年10月2日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (使用液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	コガネムシ類幼虫	アブラムシ類	アザミウマ類	ハダニ類	ヤマノイモコガ	ナガイモコガ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ							
モスピラン水溶剤		●	●			●			4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	3回以内	4A
									4000倍 (100~300L/10a)	種芋掘取り7日前まで	5回 以内	散布		5回以内 (種芋栽培)	
アディオン乳剤		●	●		●				2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	ペルメトリン	5回以内	3A
マブリック水和剤20		●			●	●			2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	フルバリネート	2回以内	3A
アタブロン乳剤						●			2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	クロルフルアズロン	3回以内	15
コロマイト乳剤				●					1000倍 (100~500L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内	6
マイトコーネフロアブル				●					1000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	1回	散布	ビフェナゼート	1回	20D
コテツフロアブル						●		カンザワハダニ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	クロルフェナピル	2回以内	13
デルフィン顆粒水和剤						●	●	オオタバコガ	1000倍 (100~300L/10a)	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	B T (生菌)	-	11A
モスピラン顆粒水溶剤		●	●			●			4000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	3回以内	4A
									4000倍 (100~300L/10a)	種芋掘取り7日前まで	5回 以内	散布		5回以内 (種芋栽培)	
トランスフォームフロアブル		●							32倍 (3.2L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	無人航空機による散布	スルホキサフロル	3回以内	4C
									2000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

やまのいも に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和6年10月2日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草 (ツククサ科、カヤツリグサ科、キク 科、アブラナ科を除く)	4~6kg/10a	植付直後	1回	全面土壌散布	トリフルラリン	1回	3
			生育初期 但し、植付30日後まで	1回	畦間土壌散布			
クレマートU粒剤	一年生雑草	4~6kg/10a	植付後萌芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	ブタミホス	1回	3
ゴーゴーサン乳剤30	一年生雑草	200~400ml/10a (100L/10a)	植付後萌芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	ペンディメタリン	1回	3
ロックス	一年生雑草	100~200g/10a (70~150L/10a)	植付直後	2回 以内	全面土壌散布	リニュロン	2回以内(但し、粒剤は1回以内)	5
			生育期 但し、収穫60日前まで (雑草発生前~発生揃期)	2回 以内	畦間土壌散布			
バスタ液剤	一年生雑草	300~500ml/10a (100~150L/10a)	収穫30日前まで (雑草生育期耕起前・植付前又は 畦間処理)	3回 以内	雑草茎葉散布	グルホシネート	3回以内	10
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	200~400ml/10a (100L/10a)	植付後萌芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	ペンディメタリン	1回	3
コダールS水和剤	一年生雑草	225~300g/10a (100L/10a)	植付後萌芽前 (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	プロメトリン	1回	5
			萌芽後 但し、植付45日後まで (イネ科雑草2葉期まで)	1回	畦間土壌散布	S-メトラクロール	1回	(適用土壌) 全土壌(但し、砂土を除く) 15

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。